わいわいひろば
おすすめ絵本のたより

第5号　2025年9月10日　作新学院大学女子短期大学部

絵本の時間がくれる親子の宝物

作新学院大学図書館職員
石川　万里

ある有名な女優さんがテレビでこう話していました。「娘に絵本を読んであげるとき、オバケのセリフをものすごく怖い調子で読むので、娘が泣き出してしまうんですよ」。その様子を見て、微笑ましく、羨ましく感じました。

絵本の読み聞かせでよく話題になるのが、「演技は必要か？」ということです。結論から言えば、どちらでもいいのです。

登場人物ごとに声色を変えて、情感たっぷりに読むのも素敵です。でも、そういうのが苦手なお母さんもいますし、そうした読み方が苦手な子どももいます。そんなときは、文章に忠実に淡々と読むのがいいでしょう。その方が物語の世界を壊さず、子どもの想像力を妨げないという意見もあります。

絵本の読み聞かせで最も大切なのは、上手に読むことよりも「読む時間をたくさん持つこと」です。子どものころに絵本を読んでもらった記憶は、いつまでも心に残ります。添い寝してくれたお母さんのぬくもり、お父さんの膝の上で見たページの美しさ、そして絵本のタイトル。人はそれを一生忘れません。

そしてもう一つ。絵本の読み聞かせの素晴らしいところは、読んでいる人の心も癒されるということです。忙しい時間を割いて読んであげているのに、なぜか心がすっと穏やかになる。そんな経験があるかもしれません。

この宝物のような思い出を、ぜひ一つでも多く、子どもの胸に。そして、お母さん自身の胸にも残してください。

「わにわにのおでかけ」

小風　さち　文
山口　マオ　絵
福音館書店

私がおすすめしたい絵本は、「わにわにのおでかけ」です。主人公のわにわには、見た目はちょっとこわいけれど、どこかかわいらしく、独特な視点と言葉で日常が描かれています。ページをめくるごとに、わにわにの動きや表情に引き込まれ、「次はどうするのかな？」とワクワクしながら楽しめる絵本です。

読み聞かせをしたとき、子どもたちは最初、少し不思議そうに聞いていましたが、わにわにの独特な行動や音に次第に笑い出し、ページをめくるたびに「あっ！」と反応し、読んだ後には「また読んで！」と興味津々で、絵本の世界を楽しんでいました。

少しずつ涼しくなってくる9月、外へのおでかけが楽しくなる季節にぴったりの一冊です。身近なおでかけの風景も、わにわにのように見方を変えれば楽しい！という気づきを与えてくれます。また、オノマトペや独特な表現を通して、子どもたちの言葉や感性を豊かに育んでくれる絵本です。親子でも、クラスでの読み聞かせにもおすすめの一冊です。

2年　鳥内 沙椰菜

「どんどこももんちゃん」

とよたかずひこ 著
童心社

私は、とよたかずひこさんの『どんどこももんちゃん』という絵本をおすすめめしたいと思います。この本では、おむつをはいた赤ちゃんのももんちゃんが、「どんどこ」と急ぎ足でどこかへ向かう様子が描かれています。「どんどこ、どんどこ」とリズム感のある繰り返しの言葉が使われており、親子で一緒に楽しめる絵本です。

「どんどこ、どんどこ」とリズムに合わせて言葉を繰り返すことで、子どもは言葉を使う楽しさを感じ、物語にどんどん引き込まれていきます。さらに、ももんちゃんが次に向かう場所について、「次はどこへ行くかな？」と問いかけることで、親子で一緒に考えたり、コミュニケーションを楽しんだりできることも魅力の一つです。

嬉しいことも大変なこともある子育てですが、一生懸命なももんちゃんから元気をもらえ、親子で幸せを感じることができる絵本です。ぜひお子さんを抱きしめながら、一緒に読んでみてください。

2年　石澤 咲弥花

✿作新学院大学女子短期大学部で保育を学ぶ短大生達がおすすめの絵本を紹介します。
✿今年度は、わいわいひろば内にてキッズスペースを設けています。
✿作新学院大学図書館で、一般の方も絵本や本を借りることができます。
✿手続き方法などをお知りになりたい場合は、お気軽にスタッフまでお声かけください。